

# 諫早市教育委員会議事録

令和4年第14回（12月定例）

# 令和4年第14回（12月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和4年12月22日（木）  
16時15分～17時30分
- 2 場 所 諫早市役所 8階 会議室8-4
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭  
委 員 原田 裕介  
委 員 山口 秀雄  
委 員 中野 高子  
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員  
教育次長 後田 一光  
教育総務課長 江頭 大一  
学校教育課長 田上 顕二  
生涯学習課長 諸岡 昌史
- 5 議題  
報告第13号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案  
についての意見の申し出について（「令和4年度  
諫早市一般会計補正予算（第5号）」中、11款  
教育費））  
議案第21号 令和5年度県費負担教職員人事異動方針について

## 議事録署名人の指名

山口委員と小野委員を議事録署名人に指名

## 議事録の承認

令和4年第13回（11月定例）教育委員会の議事録について  
質問・意見なし  
原案どおり可決

## 教育長の報告の要旨

### 《教育長の報告》

教育委員会の12月の動きについて

1番目、新型コロナウイルスについて、第8波の到来みたいなことで、罹患者が11月から増加して12月はさらに上昇している。学級閉鎖している学校もあり、今現在、中学校で1校学校閉鎖しているところもある。昨日の医師会との会議の中では、インフルエンザも同時感染というような話も出ていた。

感染者の数を見ていただくと、7月からの数であるが、10月が少し少なくなる。そして、11月に増えて12月は16日締めであるから2倍すると、小学校は139名なので270名ぐらいになる。中学校は82名だから160名ぐらいになるので、9月頃と同じ段階にきているのではないか。

教職員も罹っている。また、濃厚接触者で自宅待機している者もいるので、増えてきているなという感じがする。感染者は日々増加し、ステージが2-Iになっているが、学校行事や部活動は、検温やマスク消毒、密を避けるなどの感染症対策、オミクロン株対応のワクチン接種を呼びかけるなどして、予定通り実施するというようにしている。保護者や地域住民、来賓等も完全にシャットアウトということではなく、協力を得ながら参加していただくというスタ

ンスである。

また、コロナ感染者、濃厚接触者も含めたところと、不登校の児童生徒にオンライン配信を指示している。端末は駆使してこそ役に立ち、行事のためだけの道具ではない。学校と家庭の学びを連続させる道具なので、家庭でのタブレットの活用をコロナ感染者から、不登校の子供たちにも広げて実施してほしいということを言っている。

2番目、児童虐待について、これは全国的にマスコミ等でも報じられているが、31年連続で最多を更新している。県内は974件で過去3番目に多い。諫早市でもそういった事例や相談があっている。児童虐待を見逃してはいけないと、校長、教頭に話をしているところである。

虐待には、身体的虐待、性的虐待、ネグレクト、心理的虐待の4つがある。そして、通告義務があり学校及び教職員は、児童虐待と思われる児童を発見した場合は、速やかに福祉事務所、若しくは児童相談所に通告しなければならず、おかしいなと思う子供がいたら管理職に相談をし、管理職が適切な処置をすることとしている。

3番目、いじめと不登校の状況について、これは12月議会でも報告したところで、小中学校合わせたいじめの認知件数は、令和元年度から66件、37件、64件と、大体だが横ばいできている。爆発的にいじめが増えているわけではないが、ご存知のように佐世保市の公立中学校で「重大事態」といういじめ案件があった。

どのような内容かと言うと、灯油のポンプを肛門から入れるといったような酷いいじめで、その生徒はそれがショックで学校に登校できなくなり、佐世保市教育委員会は「重大事態」としたようである。

「重大事態」というのは、第三者委員会を立ち上げて、組織的に調査をするということであるが、これはとても大事なところで、いろいろな裁判等を見てみると、第三者委員会の調査が不十分であるということから、学校側の隠蔽ということも指摘され揉めている事例も結構あるので、しっかりとした調査が必要なのではないかということである。

教育委員会では、毎月いじめの報告をもらっているが、先ほども言ったように大体横ばいというところで、昨年度と比べて今年はいじめ実態は、現段階までで見るとほぼ同じ数である。小学校では少し増えているが、中学校では少し減っているし、学校側も一生懸命頑張ってくれていて解消した事例もある。ただし、解消したということであっても安易に考えてはいけないと思っており、表面的

にはないとしても、結局、地下に潜って陰湿ないじめがずっと続いていたというような例もあるので、注意深く目を逸らさないように見ておかなければいけない。いじめは絶対にあってはいけないことなので、強い指導も必要であるが、そういう目も必要ということである。

不登校については、定義では年間30日以上休んだ子供であるが、令和元年度133人、令和2年度187人、令和3年度224人と確実に増えている。今年度も増えてきている。これは、全国的な傾向であり、県内も同じで諫早市も例外ではない。これについては、非常に頭が痛いことで、コロナ禍の影響もあるのかなと思うが、学校に来ないという子供にどう指導するのかは、私もずっと教員をしてきたけれども、一番難しい問題である。

学校側も家庭訪問をしたり、いろいろな相談窓口を設けたり、また、クラスには入れないけれども保健室登校であればできるような場合は、少年センターで学ぶ場合と同様に出席としてカウントしており、学校においても大変頑張ってもらっている。しかし、抜本的な解決には至っていないということで、議会の中でも「喫緊の課題であり、正面から向き合いたい」と答弁を行ったところである。

続いて、12月議会での議員の主な質問について、私の答弁内容についてであるが、まず、女子中学生にスラックスの学生服をといことで、前から要望があっていたものだが、来年度、西諫早中、有喜中、長田中の3つの中学校がスラックスを採用する。他の中学校にも広がっており、将来的には全ての学校に広がるのではないかというふうに思っている。

それから、トイレの臭いの問題について、ある小学校において臭いがしたという質問であったので、清掃の度合いを増したり、消臭剤などを使ったりして対応し、また、1年に1回全ての学校で業者を入れて点検もしていると答弁を行った。

不登校の現状と対応については、先ほど話したとおりである。

学校給食交流会に市長出席をという質問については、コロナ渦ではあるが、できれば市長と教育長が学校を訪問し実施したいと思っており、マスク会話での交流になるかもしれないが、パーテーション等を設置して実施の方向でいきたいと答弁した。

給食にジビエ料理の提供をという質問では、ジビエのイノシシであるが、加工の問題もあると聞いているし、1万食が揃えられるかという課題もある。できるかわからないが実施の方向で研究していきたいという答弁を行った。

次に、図書館の開閉館時間について、長崎や大村では平日は午後

8時まで開いているけれども、諫早は午後7時で閉まるので変更できないのかという質問であった。たらみ図書館が金曜日だけ午後8時まで開館しているが、諫早図書館は2交代制で、他の図書館は全部1交代制であるため、閉館の時間を遅くするとすると、開館時間も遅くしないといけない。2交代制であってもギリギリになるので、職員体制との兼ね合いがあるし、規則等の変更も考えないといけないため、今後検討していくとの答弁を行った。

開閉館時間については、いろいろな機会に考えていきたいと思うが、図書館の充実という点では、さらに良い仕掛けをしていく必要がある。今、蔵書数や貸し出し冊数は九州で1位、2位である。他の市町では1つあればいいところだが、その規模のものが4つあるので4つが連携して他の市町を圧倒していくということである。

休館日は4つ全部を休館するのではなく、月曜日は3つが休館で森山を火曜日休館にするなど工夫はしており、開閉館時間についての問題についても、さらに研究を進めていきたいということである。

教員の未配置や通級学級の現状についての質問では、よく指摘されているところであるが、教員不足というか実際に配置されていないため、非常に苦労してところであると答弁した。

(仮称)市民交流センターとの関係で中央公民館のアンケート調査についての質問では、これは中央公民館を使っている方々に来年の3月まで、利用状況や交通手段、駐車場などの利用状況について調査をしており、(仮称)市民交流センターの設置における参考にするため行っていると答弁した。

ICT教育、小1プロブレム問題についても質問があったが、現在行っている教育の内容を答弁したところである。以上が12月議会についてである。

最後に、子供たちの活躍について、報道もあっており市民に元気と感動をくれたということで、まず、全国中学駅伝が12月18日に滋賀県で行われ、長崎県代表として西諫早中学校が男女出場した。

テレビ放送もあっていたのだが、男子は2区で2年の百田選手が区間賞を取り7位に上がって、3区で一時トップに立ったのだが、最終的には22位であった。他の学校はアンカーあたりに強い選手を置いているが、西諫早中学校は早い順に並べたような感じであった。全員早い選手を揃えるのは、公立中学校ではなかなか難しいので、頑張ったのではないかと思っている。

女子は、20位から30位あたりをずっと推移し、最後は33位であったが、3年生が1人だけのチームなので、来年は非常に楽しみである。元気一杯で頑張ってくれていたのが印象的であった。

そして、イングリッシュパフォーマンスコンテストが中央公民館であり、小学生の部は初めての開催で8校8名出場した。中学生の部は14校全部の学校から1人ずつ14名が出場した。

小学生の部は小栗小6年の山口明咲さん、中学生の部は長田中3年の松竹紀衣さんが最優秀賞に輝いて、2月に行われる県大会に諫早市代表として出場することになっている。

最初から最後まで見ていたのだが、一生懸命頑張って発表をしていた。特に、小学生はパワーポイントを使いながら立派な英語の発表だったので大変嬉しい気持ちになった。

3つ目に、八江学芸祭が12月17日諫早文化会館で行われ、小中学校14校が参加しての音楽の祭典であったが、私自身考えさせられることがあった。

朝からそれぞれの学校が出演するわけだが、会場は入場制限をかけていて、出演中の学校の保護者だけ出席するようになっている。列は1列ごと空けて、列の中でも1つつ席を空けて座るようになっており、観客はポツンポツンという感じである。保護者の方は子供の学校だけを見て、それが終わったら帰る。

今回、小中学校とも一生懸命演奏している姿は、観客こそ少なくともあったが感動的であった。ただ、例年はどうしていたかという、午前中にリハーサルをして、昼からは、保護者と出演者全員が見て、最後に合唱で終わっていたということであった。

そして、翌日にクリスマスキャロルというミュージカルを見に行ったところ、文化会館は超満員であった。つまり、前日の八江学芸祭ではあれだけ制限をしたのに、翌日は2階の隅々まで立錐の余地もないくらい入っており、自己責任という感じになっているのかなと考えさせられた。

もちろん、クリスマスキャロルも八江学芸祭も検温や消毒、換気というのは万全にやっていたと思うけれども、今後は必要以上に制限をしなくてもよいのではないかということである。以上が私の報告である。

## 《教育長の報告に対する質問・意見》

### [委員]

いじめと不登校についてだが、いじめの場合はわからないようにしており、先生たちも気付きにくいし、されている方も親には自分がいじめられているなんてことは言わないので、気付かれないものがかなりあるはずだと思う。

いじている側の子は、家庭環境について問題を抱えている可能

性がかなり高く、いじめている子も実は被害者という可能性がかなりあると思う。いじめられている側の子のカウンセリングも必要であるが、スクールカウンセラーを入れてのいじめている側の子のカウンセリングを考えてもらいたいと思う。本当に深刻ないじめは、表に出てきた時はかなり大変である。

それから、不登校に関して、できれば諫早にフリースクールを作ってほしいと思う。どうしても学校に行けないような子が家に籠ってしまうと、親と子で煮詰まってしまう。しかし、フリースクールなら行くことができるという子たちがいるので、フリースクールがいくつあれば、行けるところに出ていくことができる。出ていくことができれば、自分と同じような子供たちが存在するということも分かるので少し救いになるし、親は親で同じような親子が結構いて、自分たちの立ち位置とか、子育ての問題ではないのだということがわかる。

昔、多良見にフリースクールがあった。今は長崎に移っているけれども、そこでは、昔不登校だった子が、今の不登校の子の面倒を見に来たりしている。だから、フリースクールも学校とは別だけれど、居場所としてあれば行けるし、家の中で親子とも引きこもりで悩んで、事態が悪化していくのを防げる。また、外の世界と交流ができるし、コミュニケーションスキルもまだ向上していくので、落ち込んだ気分が少し癒されるところがあるのでお願いしたい。

10月ぐらいだったと思うが、福岡市が今までフリースクールに補助金を出していたが、補助金の出し方か何かを変えることとなり、今まで補助金をもらっていたフリースクールがもらえなくなってしまう、存続できなくなるのではないかという記事が西日本新聞に載っていた。福岡は多分10年以上前からフリースクールに補助金を出して、フリースクール運営をしてもらっていたみたいである。

明峰中学校の近くに週2回ぐらいのところができたいであるが、諫早でもそういうところが何ヶ所かできるとありがたい。  
[学校教育課長]

まず1点目、いじめのことで加害の子供について、この会の前にいじめの協議会があったのだが、いじめとなった時には、いじめられる側もいじめる側も、もしかしたらネグレクトであったりとか、虐待であったりとかいう家庭の問題も潜んでいるだろうという意見がそこでも出た。このことは、いじめの問題としてだけで解決しようということではなく、様々な要素が関係してきているので、加害の子供たちについてはしっかりと見ていきたい。その時に、スクールカウンセラーの活用は今後重要になってくるので、進めていき

いと思う。

また、不登校であるが、フリースクールができたと言われたときに、本当にそこに子供たちをやっているのかという問題もあるので、明峰地区のフリースクールについても、職員が見に行ったりして、実際に子供たちがどのような活動をするのかを見定めながら対応し、フリースクールの可能性も検討していきたいと思う。

[委員]

3点ほどあるが、1点目は端末に関してのことであるが、今年度コロナ渦の中で学校も忙しい中、どのように端末を利活用するのかということに精一杯考えられていて、そのために研究や実践を時間がない中頑張ってもらっていたのではないかなと思う。それを踏まえて、次年度にもう一度、子供たちに対して何のために配付しているのか、教育長が言われたことを先生方と一緒に確認し、どのようなサポートが現場で必要なのかを聞き取ってもらって、上手に利活用できるような体制を整えてもらいたいということが1点目である。

2点目は、不登校の数が増えているということであるが、小・中学生の数を教えてもらいたいということと、小学校の方はできたら低学年と高学年で割合が分かれば教えてもらいたい。

また、中学生であれば少年センターというものがあるけれども、以前であれば、小学生で不登校というものがしっかりと設定されていなかったのかなと思うのだが、最近小学校の不登校も増えてきているので、フリースクールとかの前に公的な少年センターみたいな行けるようなところがあるのかを教えていただきたい。

3点目であるが、小1プロブレム問題について、入学の時の段階から座れない子供がすごく増えてきていると思う。一因であると思うのが、私がネットの使い方について話をする中で、いつからゲームしているのか、ユーチューブ見ているのかと聞くと、小学校前からという子供がとて増えている感じがしている。子供たちが入学前からそのようなものをしていてどうなるのかというと、良くない姿勢で長い時間座っていたりすることで、体の発達に影響したり、座れる筋力が育たなくなり、そのまま入学してくる子供たちが増えてきていると思うので、せっかく小学校でタブレットを配って、子供たちをクリエイティブな方向にもっていこうと頑張っているのに、ネットの使い方の負の側面がでてしまっている。だから、未就学児に対する教育をしっかりとやっていくことができれば、より一層うまく回るのかなと思ったところである。

[学校教育課長]

まず、端末の活用について、本年度の6月から教育長から学校に

端末の持ち帰りについて呼びかけをしているが学校によって差がある。学年ごとに持ち帰ってみるなど様々な方法を試しながら、子供たちが家庭でした宿題を、先生がタブレットでチェックしているというような非常に活用している学校もあるので、今後は活用している学校の先生が事例を紹介するような場を設けながら、校長会や教頭会でも連携して情報共有を図ってもらい、活用できるように改めて呼びかけていきたいと思う。

また、小1プログラムであるが、幼稚園と小学校の連携ということで諫早市でも研究しており、年明けにその発表がある。それも踏まえながら、連携して上手に学校生活が送れるように、健全育成についても考えていきたい。

不登校については、後ほどお答えする。

[教育長]

座れなくなっている子供がいるということについてはどうだろうか。

[委員]

外で遊ぶ機会が減っているということだと思う。特にコロナで余計そうなっているところがあるのだろうけれども、前みたいに近所の子が集まって缶蹴りしたり、鬼ごっこしたりする機会が今はもうほとんどなくなってしまっているの、基本的には子供が運動する、集まって遊ぶ機会が減っているということが根本的な問題である。

遊び方が変わってしまっており、何年も前から遊びを元に戻す方法について、様々な話が出ているようだが難しいと思う。昔の大家族においては、上の子が下の子の面倒も見つついろいろなことをしていたが、そのようなコミュニティが崩れているし、地域のコミュニティについても、子供たちはそれぞれ学習塾やスポーツクラブなどに行っているの、みんなが放課後集まって遊ぶということは、ほとんど望むべくもないような状況になっている。そのような中で、運動をあまりしない子供たちが、本当に全然運動しないという状況になっているのだと思う。

[委員]

先ほど話があったスマホに関しては、よく保育会の中でも話が出たりするのだが、全部が全部ではないけれども、結構子育てをスマホに頼っている人がいるようだ。だから、極端な話、本のページはめくれないけどスマホのページ操作はできるという子供もいるし、また、昔はお母さんが母乳を飲ませる時は目を見て飲ませていたが、今は子供が一生懸命親を見ているのに親はスマホを見ているということもあり、就学前の施設にもメディアの指導員に来てもらって、

親に伝えていかなければいけないことがたくさんある。多分小学校になってからでは遅いと思う。三つ子の魂ではないが、子供が小さい時にそういうことを伝えて、スマホの便利なところを特化して教えていけば良い。

ユーチューブは、子供がおとなしくなるから親が見せているし、おじいちゃん、おばあちゃんも見せている場合があるので、使い方が少し間違っているのかなと感じる。これは私達の責任でもあるのかなと思うので、メディアの指導員の方々にどんどん来ていただき、少しでも変わっていくことができれば良い。

[委員]

メディア講習の中で多い依頼が、45分の講習の中で前半は親子で、後半の15分は親にだけ話をしてもらいたいという依頼で、親御さんにお伝えすることは、今まで道具というのは大人が先に使い方を知ったうえで子供に危険な使い方を教えていた。しかし、インターネット環境の道具というのは、同時並行で親子が一緒に使っており、どうかすると子供の方が詳しくなったりするので、戸惑うのは当たり前だから一緒に勉強していきましょうということである。

決して子供から関心を逸らさないように、あとは自分自身の使い方を見直すということを手順に説教がましくないよう、子供から呼ばれたときにはスマホを放して子供を見てあげないと、赤ちゃん返りと同じ状況になってしまうことなどを伝えている。

[委員]

聞いてもらいたい親が来ないことが問題だと思う。

[委員]

学校も工夫をされていて、入学説明会の時に講習を入れたり、雲仙市では、予算を組んで入学説明会の時に全部入れるようにしているが、授業参観と懇談会の間など親が帰らない時間に入れたりとか、いろいろな工夫をして話を聞くように繋げていこうとしている。

タブレットを配布するという事は、せっかくクリエイティブで素晴らしい世界を切り拓く、例えば、貧困問題とかでもゲームチェンジャーになるくらいの素晴らしいことなので、足を引っ張るような使い方をしないように、タブレットを持ち帰る時に親に取りに来てもらい、その時に話をするとかいうような工夫があって良いと思う。

[委員]

端末の持ち帰りが始まって最初に心配されていたのは、壊した時の問題であったが、事例はあるのか。

[学校教育課長]

端末が壊れたという事例は既にある。事情を確認し、子供が故意に、してはいけない活動をして壊したときには弁償をしてもらう。それ以外は新しいものと交換するようにしている。

なお、先ほどの不登校児童生徒の内訳であるが、令和3年度の224名の小中の内訳は、小学校が58名、中学校が166名、ちなみに令和2年度は187名で、小学校が48名、中学校が139名となっている。

#### [委員]

コロナ関係のことで、コロナのワクチン接種については、小児科学会も接種のメリット、デメリットをよく理解し、よく考えて打つようにと言っていたが、今は推奨するに変わっている。小さい子にしても、小学校の児童にしても推奨するに変わっており、重症化の予防はできるだろうとなっている。

正確な数字は少し違うかもしれないが、第7波で子供が48人亡くなっており、ほとんどが5歳未満で半分ぐらいは基礎疾患がない子供である。発症して3日目、4日目ぐらいの子供でも亡くなっているので、今の子供たちのワクチンは、発症予防はおそらく無理であるが重症化予防はできる。ただし、子供たちがワクチンを打ち出してから、外国も含めてそれ程時間は経っておらず、明確なエビデンスがあまり揃っていないため、進め方が非常に問題ではあると思う。

ちなみに、接種率は大阪あたりが一番悪くて10%台だったと思う。全国的には30%弱ぐらいで、諫早はまあまあいい方である。

また、2、3日前にWEBで、富山の先生だったと思うが、行政と医者と学校で一体となってワクチンを打ちましようとして一生懸命取り組んだところ、6割ぐらい打ったという話があった。

打つか打たないかは個人の問題であり、納得して打った場合はいいが、打たなかった子がいろいろ言われても困るし、学校で勧めるのはなかなか難しいと思う。しかし、親は自分自身が打った時に熱が出たからとか、周りが打っていないからという理由もあって、6ヶ月から5歳までの子供の接種率はまだ1パーセントなので、学校としては勧めることはできないにしても、小児科学会は推奨しているので、資料を提供するなど前よりは学校に勧め易くなった。

諫早では12歳以上はすごく接種率が良く80%を超えており、中学生も結構いいところいっているので、接種率が上がればいろいろとやり易くなってくる。ただし、勧めやすくなったとはいえ、学校にこうしてくださいとはいえないところがある。

それと、多分同時に大流行は来ないと思う。2、3日前に全国の

小児科医とWEBで話したが、インフルエンザは出ており雪国だと週に7、8人ぐらい出ているけれども、学校では1クラスだけ出て、あとは広がらないという話をされていた。だから、その集団では広がるけれども、それがどんどん広がって大きな流行とは今のところはならないようである。

コロナが流行ってみんなが気をつけていると、オーストラリアでもインフルエンザが流行った後にコロナが流行り、インフルエンザは少し下火になっているみたいなので、今コロナが流行っていればおそらくインフルエンザの大きな流行は来ないのではないかと思っている。

#### 《議題》

報告第13号 臨時代理の報告について（議会の議決を経る議案についての意見の申出について（「令和4年度諫早市一般会計補正予算（第5号）」中、11款教育費）

教育総務課長、生涯学習課長の順に報告

質問・意見なし

了承

議案第21号 令和5年度県費負担教職員人事異動方針について  
学校教育課長 説明

質問・意見なし

原案可決

#### 《生涯学習課長の報告》

- 1 令和5年 諫早市二十歳の集いについて
- 2 令和4年度 コミュニティスクールおよび地域学校協働活動説明会について

#### 《生涯学習課長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

## その他

教育総務課長

1月定例教育委員会の日程及び総合教育会議の日程について説明

17時30分閉会